

デスカンファレンスを開催しました

北坂戸ファミリークリニック、北坂戸訪問看護ステーションでは、お看取りさせていただいたケースについて、反省点や良かった点を振り返り、今後のターミナルケアに活かしていけるよう、月に1回デスカンファレンスを開催しております。今回は、関わっていただいたケアマネジャーもご参加いただき、実施しました。



ケアマネ

先生、看護師よりも長くお付き合いのある利用者様で、在宅医療が介入する前は、数年にわたり次男さんがお一人で頑張っておられた経緯がある。在宅医療介入後は、介護から一歩引いた感じがあった。それまでの頑張りを見ていたので介護に介入することについて強く言えない経緯があった。また、環境調整でエアコンがないこと、生活スペースを1階に移すことなどの調整を進められればよかったと振り返る。



医師

不器用ながらも持病のある長男さんが頑張って介護をしていた。介護量を減らすために経管栄養の回数を減らしたりはしていったが、他の同居家族(次男さん)の介入を進めることができれば良かったと振り返る。お看取りの際、同居家族の方々から感謝の言葉をいただけて、納得のいくお看取りができたと考えています。

長い療養生活を息子様2人で介護されてきました。生活環境・介護方法など実施可能な方法を検討しながら、医師・ケアマネ・看護師が連携して関わりを持っていました。今回のカンファレンスでは、初めてケアマネさんに参加していただきました。医療側が感じていた、家族の介護の役割分担の偏りは、医療介入前は違っていたなどの経緯を聞くことができ、もっと違う方法で関わることはできないかを感じるケースでした。今回のカンファレンスを、今後のケアに活かしていきたいと思えます。

まとめ



看護師
リハスタッフ

長男さんに負担がかかっている状況は把握していたため長男さんの実施出来そうな方法の提案に勤めた。仕事でお会いできない次男との情報共有方法を上手く調整し、介護の役割分担の検討などの相談を早い段階でできていればと振り返る。「食べることが好きだったから退院させた」と介入時話されていた。最期まで経口摂取と胃瘻併用し家族、本人が望む時間を過ごすことができた。(ケアマネさんの話を聞いて)次男さんの過去の経緯を知ることができてよかった。